

## 第2回ミツバチの不足問題に関する有識者会議 概要

生産局

第2回会議における、有識者からの意見等の概要については以下のとおり。

**1 ミツバチの確保状況及び増殖状況について**

- ・ 事務局から、ミツバチの増殖状況についてアンケート調査を行ったところ、養蜂家1,255戸から回答があり、そのうち、7月末時点において約6割の養蜂家の蜂群数が順調に増加しているとの回答を得ている。

一方、増殖が順調にいけない養蜂家からの回答によれば、天候不順、ダニ、農薬等が理由としてあげられている。

また、花粉交配用ミツバチの供給予定量のうち、9割以上供給可能との回答を得ている。

- ・ 事務局から、園芸産地における花粉交配用ミツバチの確保状況について調査を行ったところ、10月に本格的な花粉交配のシーズンを迎えるいちごについては、7月末の時点で約5割が確保できており、例年に比べて前倒して確保が進んでいる（例年は8月から確保）との報告があった。

**2 今秋以降の対応について（有識者による意見交換）**

有識者からは以下のような意見があった。

- ・ 今秋から始まるいちごの花粉交配用ミツバチについては問題ないだろうが、年明け以降の供給については注意すべき。
- ・ 北海道、東北地方などでは、8月の天候不順によりミツバチの増殖状況が芳しくないため、花粉交配用ミツバチの早めの確保を徹底することが重要。
- ・ 引き続き、花粉交配用ミツバチの増殖状況、確保状況について確認していくことが重要。
- ・ JA、県養蜂協会、県の3者で、「連携協定」を結び、需給調整体制を進めている。全国的な調整と、地域ごとの取組の二本立てが有効。

- ・ 「連携協定」を実施している県にならって、すぐに自県でも体制作りをしていきたい。
- ・ 花粉交配にミツバチを使用する際に、園芸産地で大事に使用してもらうことが重要。

### 3 その他

有識者からは以下のような意見があった。

- ・ この問題については世論の関心も高く、様々な報道がなされるが、正確な情報提供が重要。
- ・ ミツバチに使用できる薬剤が少ないため、新薬の開発を推進すべき。
- ・ ミツバチの増殖環境のため、遊休地等を有効に活用し、蜜源樹木を増やすことが重要。
- ・ 花粉交配用ミツバチを確保するため、その基礎となる採蜜用のミツバチも含めた支援が必要。
- ・ ミツバチ以外の訪花昆虫も用いる等、セイヨウミツバチだけに頼らない花粉交配技術の開発も必要。

### 4 今後の対応

有識者から頂いたご意見を踏まえ、農林水産省としては、

- ① いちごの生産者等に対して、花粉交配用ミツバチを早めに確保するよう、注意喚起を行うとともに、
- ② 引き続き、花粉交配用ミツバチの増殖状況、確保状況について確認していく。
- ③ また、本格的ないちごの花粉交配シーズンを迎える前の9月中旬には、花粉交配用ミツバチの需給調整システムも活用してもらうことについて通知等により周知し、円滑な花粉交配用ミツバチの供給を図る。